

無料学習塾に来られない子について考える

～見えない貧困～



無料学習塾グループ

小林正志 尾崎多美子 根岸信之
星野妙子 星野幸子

平成30年11月26日

無料学習塾



平成28年11月より	NPO法人結いの家が無料学習塾を開設
平成29年4月より	市子どもの学習支援事業として、結いの方に委託(小学生)
平成30年4月より	// (小・中学生)

対象

- ①就学援助(要保護・準要保護)世帯
- ②児童扶養手当受給世帯
- ③市が認めた世帯



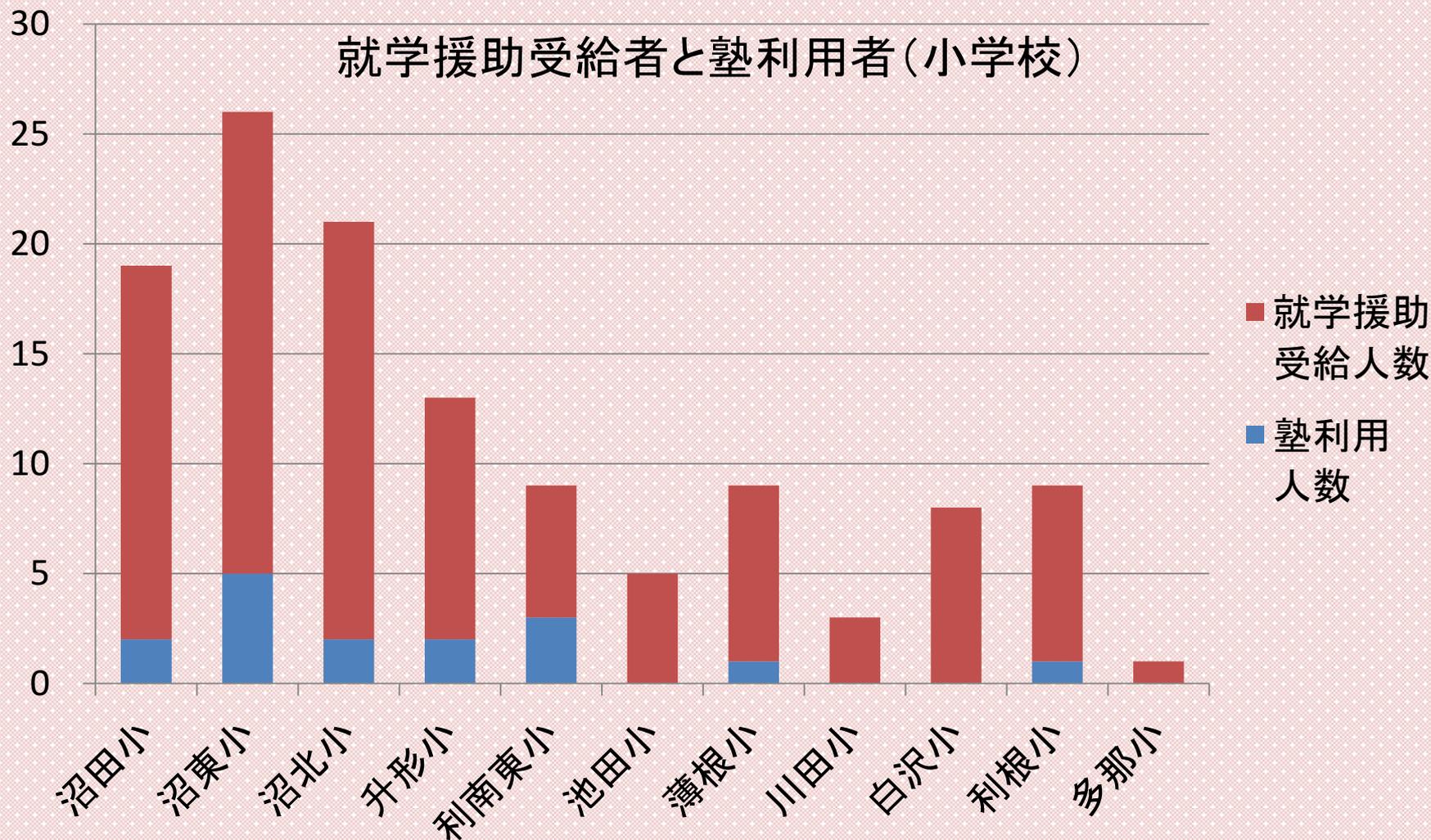
- ①受給者 239人
- ②受給者 445人

現在の利用者 25人

なぜ?

必要な人に
利用されて
いない?

無料学習塾利用者の状況（小学校）



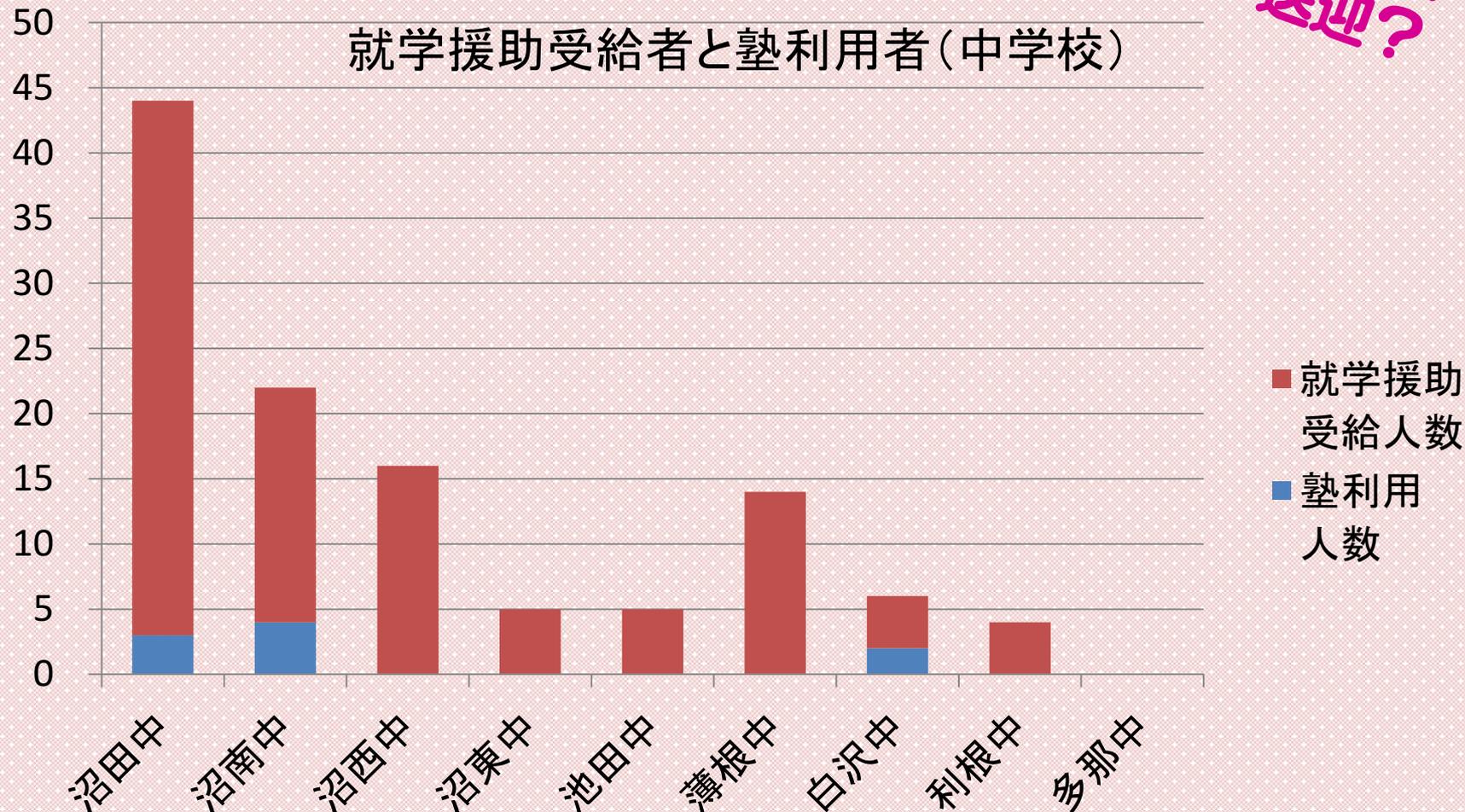
受給者123人

の内

利用者16人

無料学習塾利用者の状況（中学校）

やはり問題は送迎？



受給者116人

の内

利用者9人

無料学習塾ってどんなところ？



NPO法人結いの家が無料学習塾を開設

→家族の問題(DV・虐待・貧困)の貧困に対応するため

∴ 経済的に厳しいご家庭や一人親家庭の小学生・中学生が対象

☆個別指導

- ・勉強する習慣が身に付くように
- ・勉強の仕方がわかるように
- ・子どもたちの心の支援

☆頼れる講師

- ・教員経験者が丁寧に対応
- ・様々な職業人を特別講師に



☆保護者に対しての支援

- ・頑張っている一人親の応援
- ・送迎時の声かけから相談も

無料学習塾ってどんなところ？

時間：毎週土曜日 午後2：30～4：30
午後6：30～8：30
毎週月曜日 午後6：30～8：30

- ・保護者、生徒の希望のコースで利用
- ・夜は中学生が多い、また高校生、不登校生も利用



☆☆ ☆☆ 子ども食堂も併設 ☆☆ ☆☆

対象：沼田市の子ども達

時間：毎月第2・第4土曜日 午後5：00～6：30



- ・無料学習塾の小学生は勉強が終わって子ども食堂で親とともに夕食をとって帰る。
- ・中学生や若い講師は子ども食堂で夕食をとってから勉強。



藤田孝典さんの講演会で・・・

- ・日本の子どもの約6人に1人が貧困といわれている（相対的貧困）
- ・一人親家庭の深刻さ（相対的貧困率約50%・不安定な就労形態など）
- ・日本の進学費用の高さ（世帯収入と進学率の比例関係）
※沼田市では 約15人に1人が就学援助を受給（小中学校）

貧困のサイクル

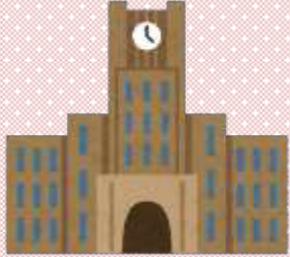


貧困から脱するには・・・

高等教育（特に大学）を受けることが必須

大学に進学する学力が必要
無料学習塾で学力を身につける

特に
母子家庭



でも今は・・・

沼田市に1か所 各中学校区に1か所が望ましい
（子どもが歩いて通えるところ）

そもそも・・・

この沼田では「貧困」って
どう考えられているんだろう？



「貧困」について
聞いてみました！

貧困について考える上で欠かせない、経済的な部分を支える

☆地元企業 ☆商工会議所 を訪ねました



- ・「貧困」が具体的に問題とはされてはいない。
- ・自社の従業員の生活を支えることは考えている。
- ・利益だけではなく企業として社会貢献も考えている。



「貧困」が見えていないから、何をしたいのか分からない。
今の貧困＝**相対的貧困**の理解の難しさ

何が問題なの？

相対的貧困

- ▶ 企業や一般の人に「貧困」が見えていない。
- ▶ 企業その他の団体からの学習支援が少ない。
- ▶ 子どもの教育・将来について真剣に考えられない親もいる。
- ▶ 「車の送迎」ができず、無料学習塾に通わせられない家庭がある。
- ▶ 無料学習塾を本当に知って欲しい人に伝わっていない。
チラシの学校配布、市窓口配布で充分？

どうしたらよくなる？ 1

「車での送迎」の問題

* 徒歩で通える無料学習塾を！

～市内に数か所(中学校区、できれば小学校区毎に)塾を作る。

- ・市有施設や空き家・農家の空き室などを利用
- ・講師は、退職教員を中心に、学生ボランティアも募る。
- ・市の委託事業として予算化してもらい家賃・光熱費・講師の手当などをまかなう。

* 塾までの送迎手段の確保を！

～塾までの距離があり親が送迎できない子どもの送迎を行う。

- ・できれば市の車両・運転手による送迎を行う。
(ケースによっては講師が自己車両を使用)



どうしたらよくなる？ 2

「塾の必要性の広報」

* 無料学習塾をもっと知って欲しい！



～「こんな塾ならばうちの子どもも通わせたい」

・経済的に厳しいご家庭のお子さんにとっては必要な存在

・学力アップにプラス！

いろいろな講師や子どもとの交流により社会性も養われる！

生きる力もつけて欲しい！

・子どもの居場所であることをもっと広報したい。
不登校の子もここなら来られる？かも！

それぞれの家庭事情に
合った対応が考えられ
ている

・子どもの親に「教育」の重要性、必要性の啓発

どうしたらよくなる？ 3

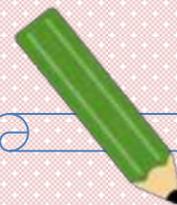
「学習支援」について

* 「沼田モデル」を！

・沼田市でも、企業、商工会議所、市が協力し何らかの学習支援ができないか。



・高校生が目をつけるようなものが1つでもあれば「沼田モデル」ができるのではないか。



前橋モデル

・地元で進学や就職しやすい環境を整えて、地域人材を確保しようという協議会。

・前橋市、前橋商工会議所、市内全大学が参加、県と群馬労働局がオブザーバー。

・奨学金制度やインターンシップ、事業承継促進などを検討

* 給付型（返済不要）の奨学金制度を！

・返済型の奨学金制度はローンと同じ

・地元就職することで返済不要なら、双方にプラス！



どうしたらよくなる？ 4

その他（環境づくり）

＊ 利根沼田地域に大学の誘致を！

- ・利根沼田地域に大学が無いこと = 将来の就職先の選定にも関わること
利根沼田地域の将来のため、学部（一部でも）の移転を地域の総意として要望を！
- ・地元の高校生が、地元で大学に入学して地域の将来について勉強してくれる形が望ましい。

期待される
効果

地域の活性化

小・中学生のロールモデル

親の関心も高まる



終わりに・・・

グループメンバーから
一言！



ご静聴ありがとうございました。